森の大賞

文部科学大臣賞

おばあちゃんの羽子板

福岡県久留米市
福岡教育大学附属久留米小学校3年
椎窓　耀介

朝くらのおばあちゃんに、こんな話を聞きました。

おばあちゃんが小学生のころ、学校で羽つき大会が開かれていたそうです。その大会でかつために、練習をしようとしました。しかし、羽子板はおばあちゃんのお姉さんがおいわいでもらった物しかありませんでした。だからおばあちゃんは、

「羽子板が一つしかないから練習できない。」

と、ぼくのひいおじいちゃんであるお父さんに言ったそうです。すると、ひいおじいちゃんは板を切って、自分で羽子板を作りました。色つけはおばあちゃんとお姉さんがしました。でも、羽がありません。そこで、ひいおじいちゃんは、ムクロジの実をとってきたそうです。ムクロジの木は、お寺などによく植えられているそうです。たねは、じゅずや羽根つきの羽につかわれるそうです。ムクロジの実に、にわとりの羽をさしこんで作ってくれたそうです。おばあちゃんは、その羽子板で練習しました。大会ではゆうしょうできなかったけれど、六十年い上たった今でも、大切な思い出として心にのこっているんだと思います。

この話を聞いて、昔の人は植物を生活にりようしていたことが分りました。りようするためには、植物のことをよく知っておかないといけません。ぼくのひいおじいちゃんは、植物のことをよく知っていたんだろうなと思いました。

ぼくは、植物のことをよく知りません。花がさいたらきれいだなとか、おちばが多いなとかしか感じていませんでした。でも、よく見ると家や学校のまわりには、いろいろな木や花がさいています。まずは、身の回りの植物のことをかんさつしたいと思いました。

ひいおじいちゃんみたいに、植物を生活にいかせるような人になりたいです。